

2020年3月期 第2四半期決算概要



日進工具株式会社

2019年10月31日
(証券コード6157)

目次

1. 2020年3月期2Qの業績	P. 3 . . .	第2四半期（累計）決算の概要
	P. 4 . . .	営業利益の減益要因
	P. 5 . . .	損益計算書サマリー
	P. 6 . . .	貸借対照表サマリー
	P. 7 . . .	四半期業績推移
<hr/>		
2. 2020年3月期の業績予想	P. 14 . . .	業績予想
	P. 15 . . .	上期実績と下期予想
	P. 16 . . .	配当予想
<hr/>		
参考資料	P. 18 . . .	過去5年間の業績と主要データ推移
	P. 19 . . .	投資指標
	P. 20 . . .	株価推移とバリュエーション
	P. 21 . . .	I R 情報サイトのご案内

2020年3月期 第2四半期の業績



第2四半期決算（累計）の概要

工具需要の後退から減収・減益

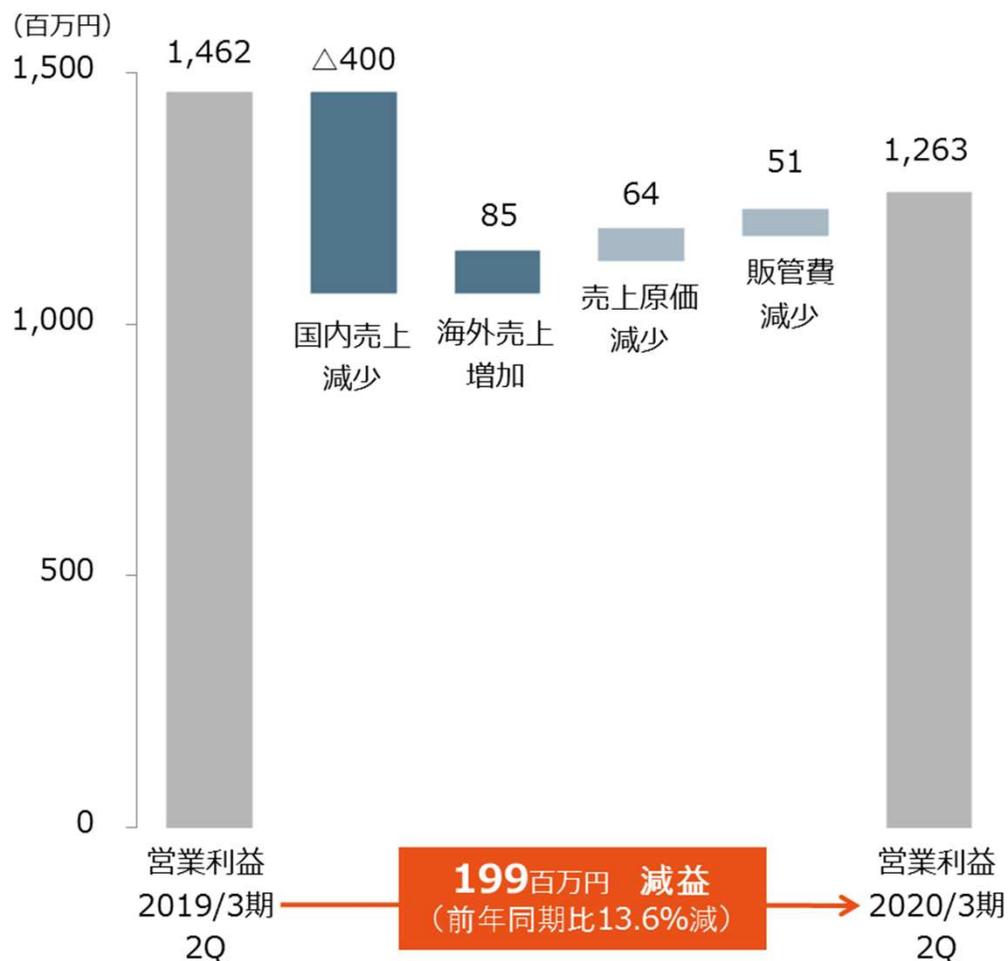
予算比では売上高は3.7%のマイナス

利益はほぼ予算通り

（単位：百万円）	2019年3月期 2Q累計	2020年3月期 2Q累計	2020年3月期 上期予想	達成率
売上高	5,247	4,932	5,120	96.3%
前年同期比	+11.9%	-6.0%	-2.4%	
営業利益	1,462	1,263	1,230	102.7%
前年同期比	+19.3%	-13.6%	-15.9%	
経常利益	1,467	1,265	1,240	102.1%
前年同期比	+18.1%	-13.8%	-15.5%	
四半期純利益	972	832	840	99.1%
前年同期比	+7.2%	-14.4%	-13.6%	

- 海外経済の減速に伴う輸出の鈍化や世界的なIT需要の回復の遅れなどから小径工具需要は弱含みの展開となり、特に8月以降は落ち込みが目立った。当四半期累計の連結売上高は4,932百万円と、前年同期の水準から6.0%の減少となった。また上期予想に対する達成率は96.3%と計画を3.7%下回った。
- 連結経常利益は1,265百万円と前年同期から13.8%の減少となったが、上期予想に対する達成率は102.1%とほぼ予算通り。
- 売上高経常利益率は25.7%となり、前年同期の水準を2.3ポイント下回った。

営業利益の減益要因



- 売上高は、国内が前年同期比400百万円、10.5%減少した一方、海外は同85百万円、5.9%の増加となり、売上高全体では同315百万円、6.0%の減少となった。
- 売上原価は、材料費や外注加工費といった変動費が生産減により同1割強減少したものの、労務費はほぼ横ばい、製造経費は減価償却費の増加等から同9.2%増加し、製品製造原価は同0.7%の減少に止まった。製品棚卸の増加から売上原価は同2.9%の減少となったが、売上高の減少率を下回った。
- 販管費は、販売促進費や展示会費の減少等から、全体で同51百万円、3.3%減少。
- これらの結果、営業利益は同199百万円、13.6%減少し、売上高営業利益率は25.6%と前年同期の水準を2.3ポイント下回った。第1四半期は日進工具香港連結の影響もあり30.5%と高水準となったが、7-9月期では連結の影響が逆に作用し、累計値を引き下げた。

損益計算書サマリー

(単位：百万円)	2019年3月期 2Q累計	2020年3月期 2Q累計	前年同期比 増減率
売上高	5,247	4,932	-6.0%
売上総利益	3,021	2,770	-8.3%
対売上高比率	57.6%	56.2%	
販管費	1,558	1,507	-3.3%
対売上高比率	29.7%	30.6%	
営業利益	1,462	1,263	-13.6%
対売上高比率	27.9%	25.6%	
経常利益	1,467	1,265	-13.8%
対売上高比率	28.0%	25.7%	
四半期純利益	972	832	-14.4%
対売上高比率	18.5%	16.9%	
設備投資額	382	958	+150.6%
減価償却費	291	335	+14.9%
従業員数(人)	325	337	+3.7%

- 売上高は4,932百万円と前年同期比6.0%の減収。電子・デバイス関連や半導体製造装置、自動車部品等の減速が工具需要に影響を及ぼした。
- 売上高の減少により、売上総利益は2,770百万円と同8.3%の減少となり、売上総利益率も56.2%と同1.4ポイント低下。
- 販管費は人件費、一般管理費ともに抑えられ、同3.3%の減少。それでも売上高の減少が大きく、売上高販管費比率は30.6%と同0.9ポイント上昇した。
- これらにより、営業利益は同13.6%減の1,263百万円、売上高営業利益率も25.6%と2.3ポイント低下。
- 設備投資額は、建設中の新開発センターや子会社工場に関連する支払い等もあり、前年同期の1.5倍となる958百万円。減価償却費は、前年度に機械設備の導入を例年に比べ多額としたことから、14.9%増加の335百万円。

貸借対照表サマリー

(単位：百万円)	2019年 3月期末	構成比	2020年 3月期2Q末	構成比	前期末比
(資産の部)					
流動資産	9,932	64.6%	9,741	61.8%	-1.9%
現金及び預金	6,209	40.4%	6,080	38.6%	-2.1%
受取手形及び売掛金	1,531	10.0%	1,391	8.8%	-9.1%
棚卸資産	2,056	13.4%	2,174	13.8%	+5.8%
固定資産	5,449	35.4%	6,012	38.2%	+10.3%
有形固定資産	4,685	30.5%	5,257	33.4%	+12.2%
無形固定資産	84	0.5%	69	0.4%	-17.6%
投資その他の資産	679	4.4%	686	4.4%	+1.0%
資産合計	15,381	100.0%	15,754	100.0%	+2.4%
(負債の部)					
流動負債	1,643	10.7%	1,466	9.3%	-10.8%
買掛金	277	1.8%	271	1.7%	-2.1%
固定負債	275	1.8%	254	1.6%	-7.6%
負債合計	1,919	12.5%	1,720	10.9%	-10.3%
(純資産の部)					
自己資本合計	13,397	87.1%	13,910	88.3%	+3.8%
純資産合計	13,461	87.5%	14,033	89.1%	+4.2%
負債・純資産合計	15,381	100.0%	15,754	100.0%	+2.4%

流動資産

法人税等や賞与の支払いによる現預金の減少等により、1.9%減少。

固定資産

新開発センターや子会社工場の建設仮勘定が増加した影響等から、同10.3%増加。

負債

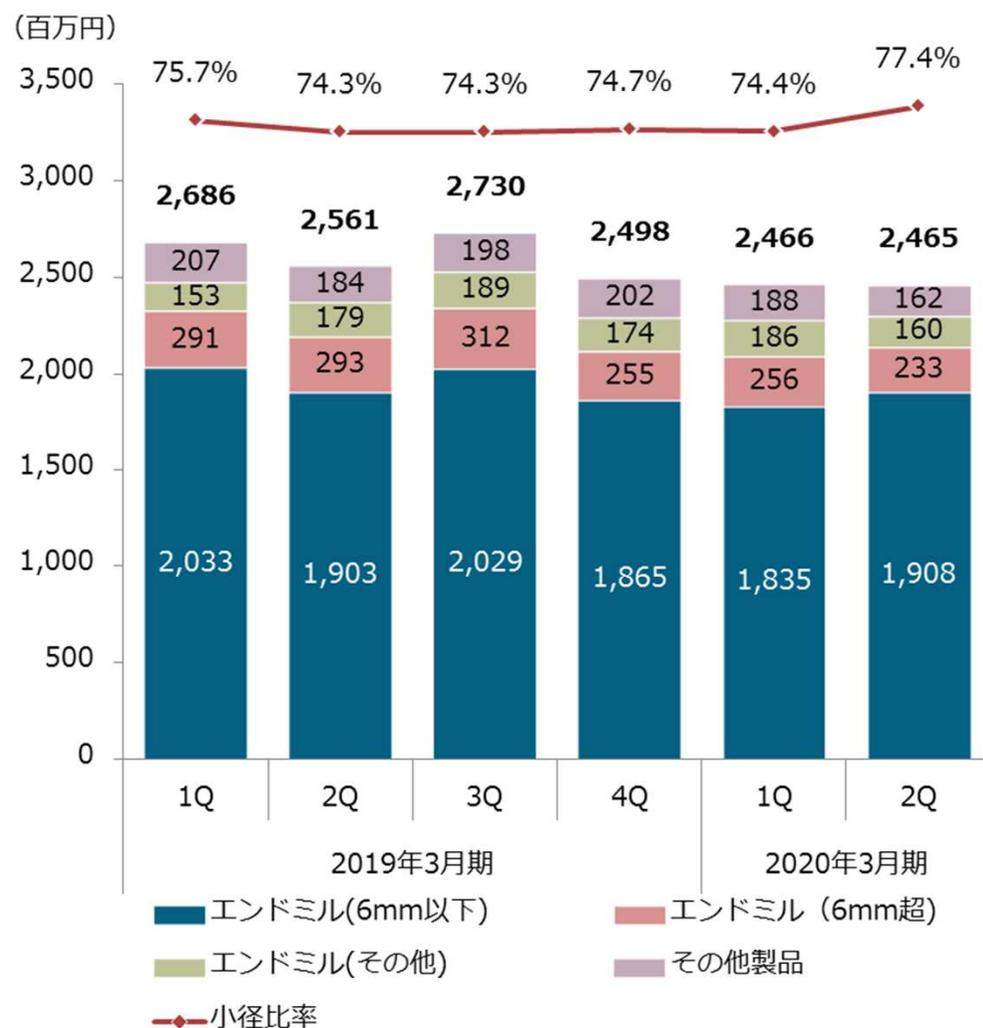
役員賞与引当金や賞与引当金の減少等により、同10.3%の減少。

純資産

利益剰余金の増加等から、同4.2%増加、自己資本比率も88.3%と1.2ポイント上昇

四半期業績推移（売上高の推移 製品別）

製品別売上高と小径比率の推移

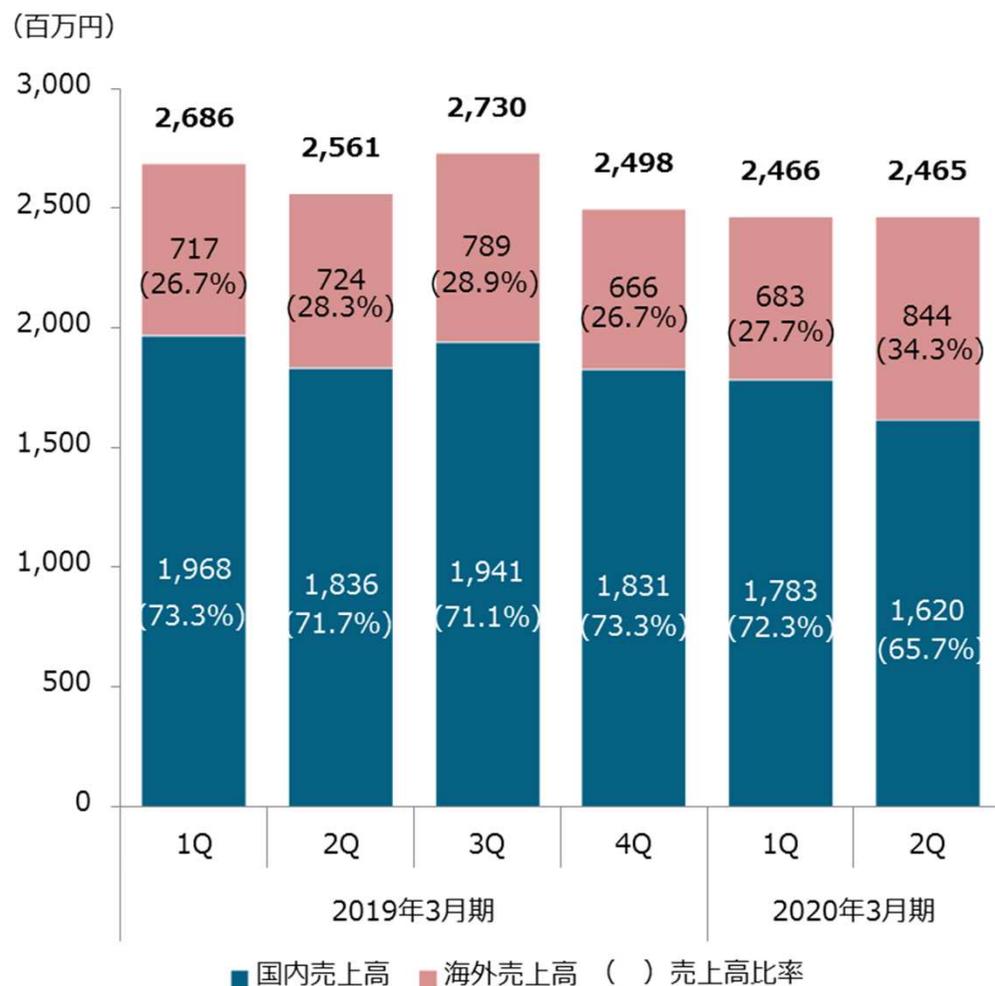


自動車関連では、年初からの国内新車販売台数は前年同期に比べ増加したものの、最大の市場である中国でローカルメーカーを中心に販売が大きく減少したため、部品供給を行う国内メーカーへの影響がみられた。また電子部品・デバイス関連では、車載向けは増加がみられたものの、スマートフォンの出荷が引き続き減少傾向となるなか、全体としては弱い動きとなり、工具需要も減少傾向での推移となった。

主力のエンドミル（6mm以下）は前年同期比0.3%増と水準を維持したが、昨年秋に値上げを行ったエンドミル（6mm超）は同20.3%減と大きく減少した。またユーザーの独自仕様となる特殊品を中心としたエンドミル（その他）も同10.7%の減少、工具ケース等のその他も工具需要全般の減少から同12.0%減。小径比率は小径以外の不振により相対的に上昇し、同3.1ポイントアップの77.4%。

四半期業績推移（売上高の推移 国内・海外）

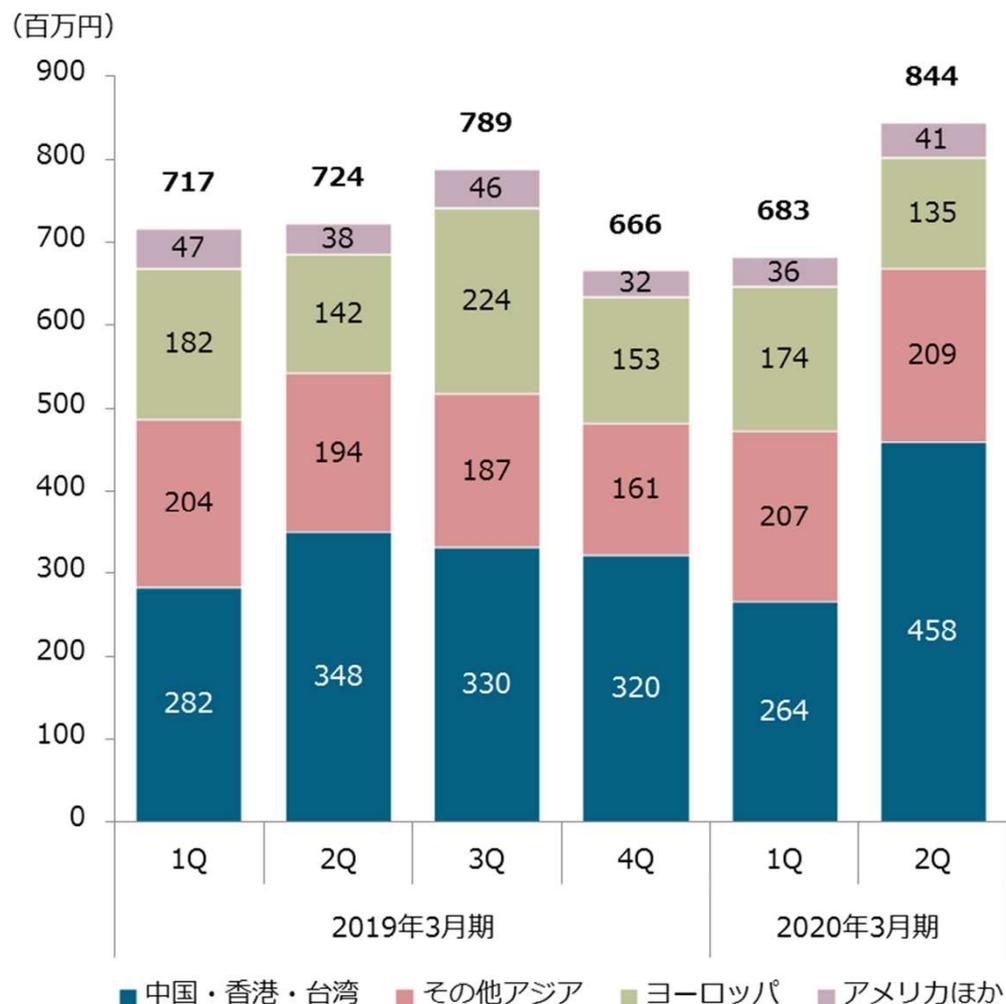
国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は前年同期の水準から215百万円、11.7%減少し1,620百万円、海外売上高は逆に同120百万円、16.6%増加し844百万円であった。
- 日進工具香港における4-6月の売上高が高水準となったことにより（同子会社は連結に当たり3ヶ月のずれが生じる）、海外売上高が前年同期を大きく上回った一方、国内売上高が11.7%減少したため、海外売上高比率は6.0ポイント上昇し34.3%となった。

四半期業績推移（売上高の推移 海外地域別）

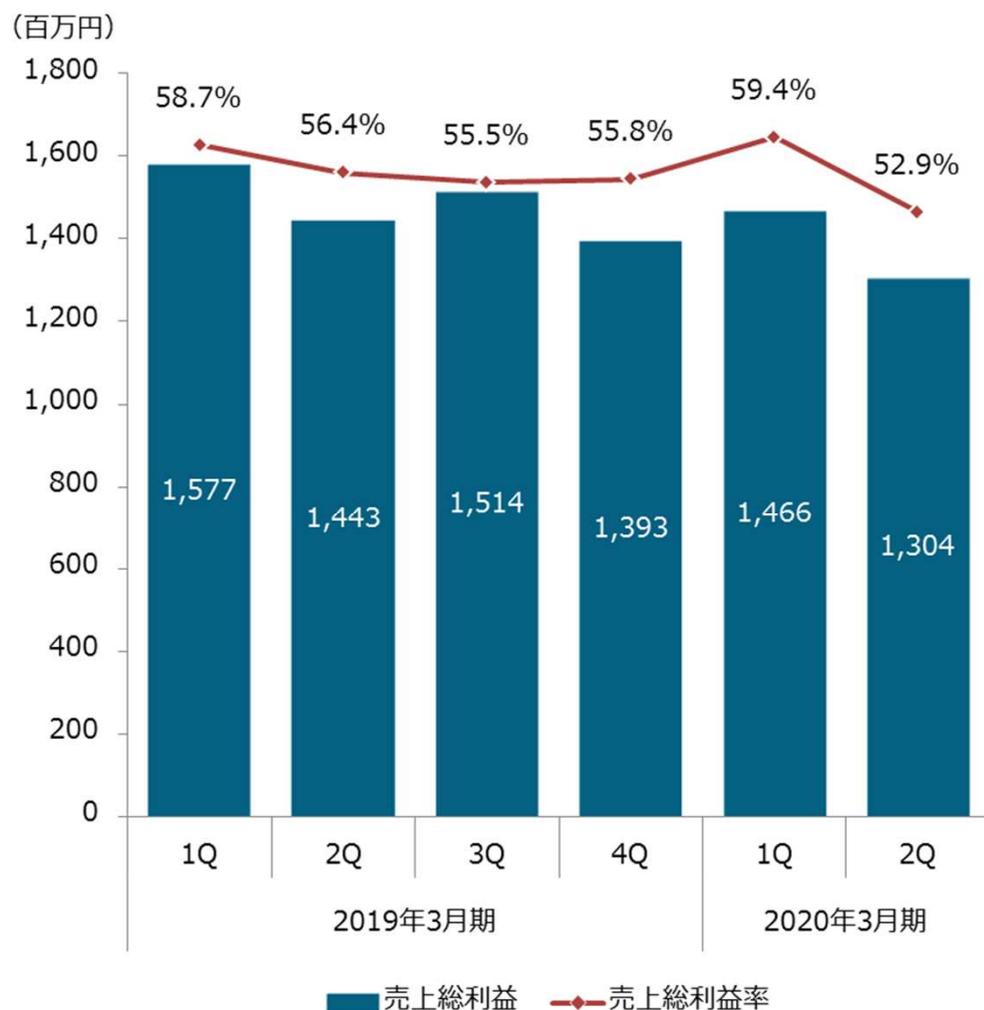
海外地域別売上高の推移



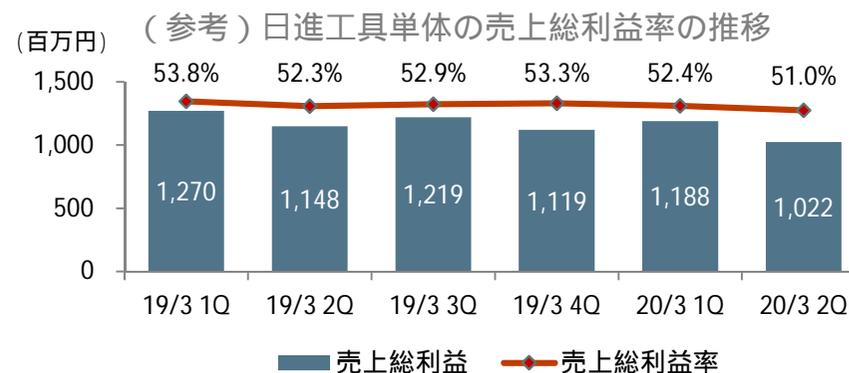
- 中国・香港・台湾は前年同期比31.4%増加の458百万円と四半期での過去最高を大きく更新、中国でのスマートフォン向け需要は毎年この時期がピークとなるが（日進工具香港の連結にからみ当四半期の中国向けの数字は4-6月）、搭載カメラ数の増加や米中貿易摩擦をにらんだ前倒しの影響もあり大きく増加したものとみられる。
- その他アジアは前年同期比7.9%増の209百万円。中国からのシフトは具体的な動きとしては把握出来ていないが、タイを中心に今年度に入り比較的堅調な動きとなっていることから、多少影響が出ている可能性も考えられる。
- ヨーロッパは前年同期比では4.7%減と地域別では唯一前年同期の水準を下回った。中国向けの輸出減少による影響が出ているとみられる。
- アメリカほかは引き続き少額での推移となっており、海外売上高全体の5%程度に止まっている。

四半期業績推移（売上総利益の推移）

売上総利益と売上総利益率の推移

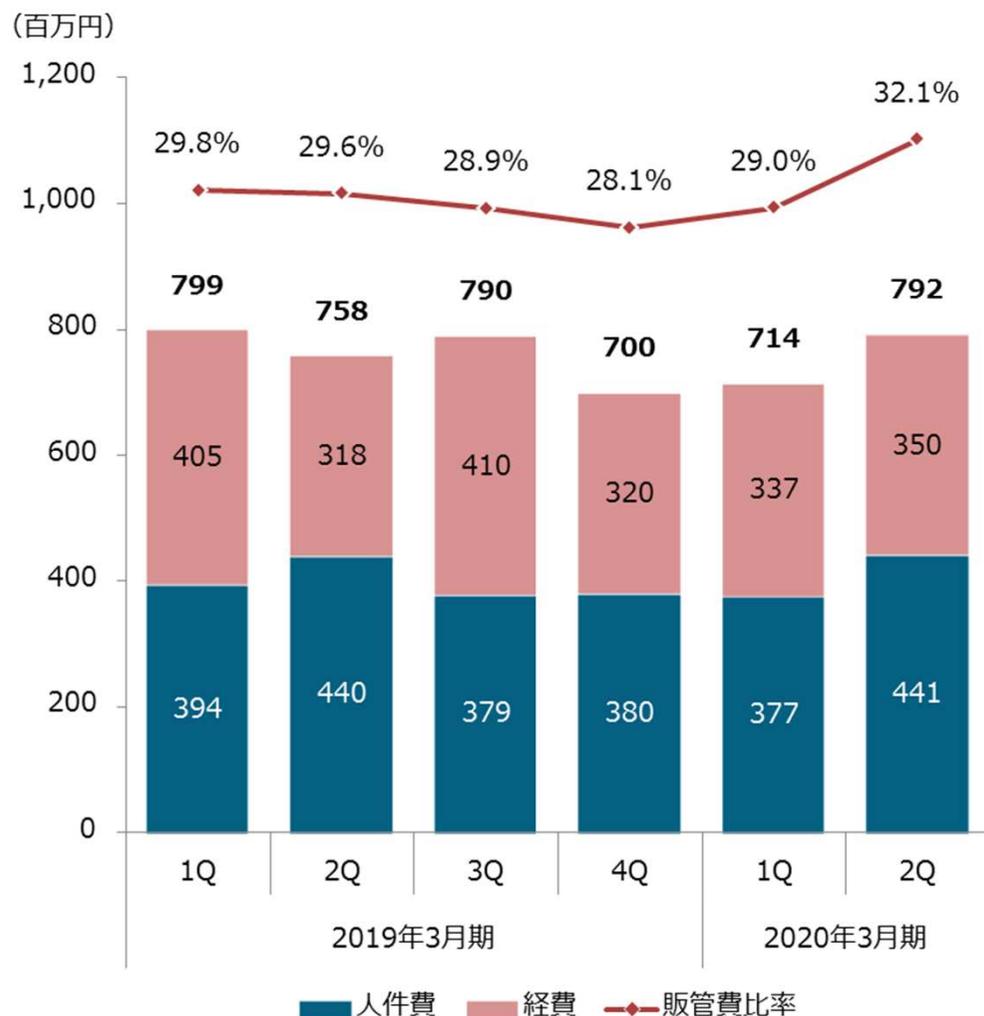


- 売上高の減少により前年同期に比べ生産量を抑えたことから、材料費や外注加工費といった変動費が減少し製造原価は同58百万円、5.3%の減少となったが、日進工具香港の連結にあたり原価の加算が同100百万円強増加したため、売上原価は同3.9%の増加の1,161百万円となった。
- これにより売上総利益は同139百万円、9.7%減少し、売上総利益率も52.9%と同3.5ポイント低下した。
- なお日進工具単体における第2四半期の売上総利益率は51.0%となっており、前年同期の52.3%に比べ1.3ポイントの低下となっている。



四半期業績推移（販管費の推移）

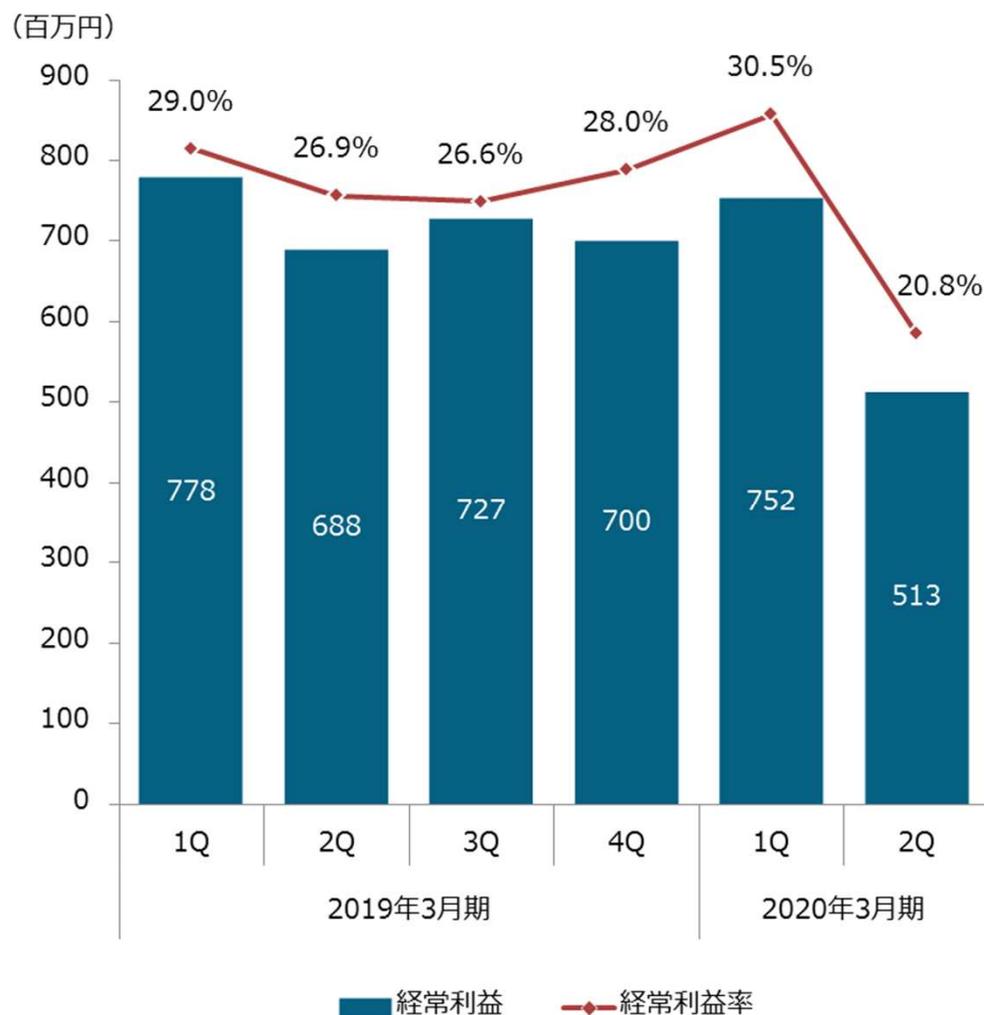
販管費と販管費比率の推移



- 販管費では、昨年11月の本社移転による賃借費の上昇や新製品のパンフレット作成、またコーティング関連を中心とした研究開発費の増加等から、一般経費は前年同期比10.2%増加の350百万円。
- 一方、人件費は同0.3%増加の441百万円とほぼ変わらず。
- 売上高販管費比率は売上高の減少と販管費の増加により、前年同期に比べ2.5ポイント上昇し32.1%となった。

四半期業績推移（経常利益の推移）

経常利益と売上高経常利益率の推移



- 前年同期比3.7%の減収となったことに加え、減産や日進工具香港の連結による影響で売上原価が上昇、販管費も増加したため、営業利益は511百万円と同25.3%の減益。
- 営業外損益では、作業くず売却等による収益4百万円と為替による差損2百万円が発生し、経常利益は513百万円と25.5%の減益。
- 売上高経常利益率は20.8%と前年同期に比べ6.1ポイント、前四半期に比べて9.7ポイントの低下となった。前四半期に比べ生産水準や在庫の増加を抑制したほか、日進工具香港の連結のずれによる影響が第1四半期とは逆に売上原価の増加要因となったこと、また販管費においても第1四半期の広告宣伝費が第2四半期にずれたことや、株式報酬費用等により販管費が増加した影響による。なお第2四半期累計期間の売上高経常利益率は25.7%で、前年同期に比べ2.3ポイントの低下となっている。

2020年3月期の業績予想



業績予想

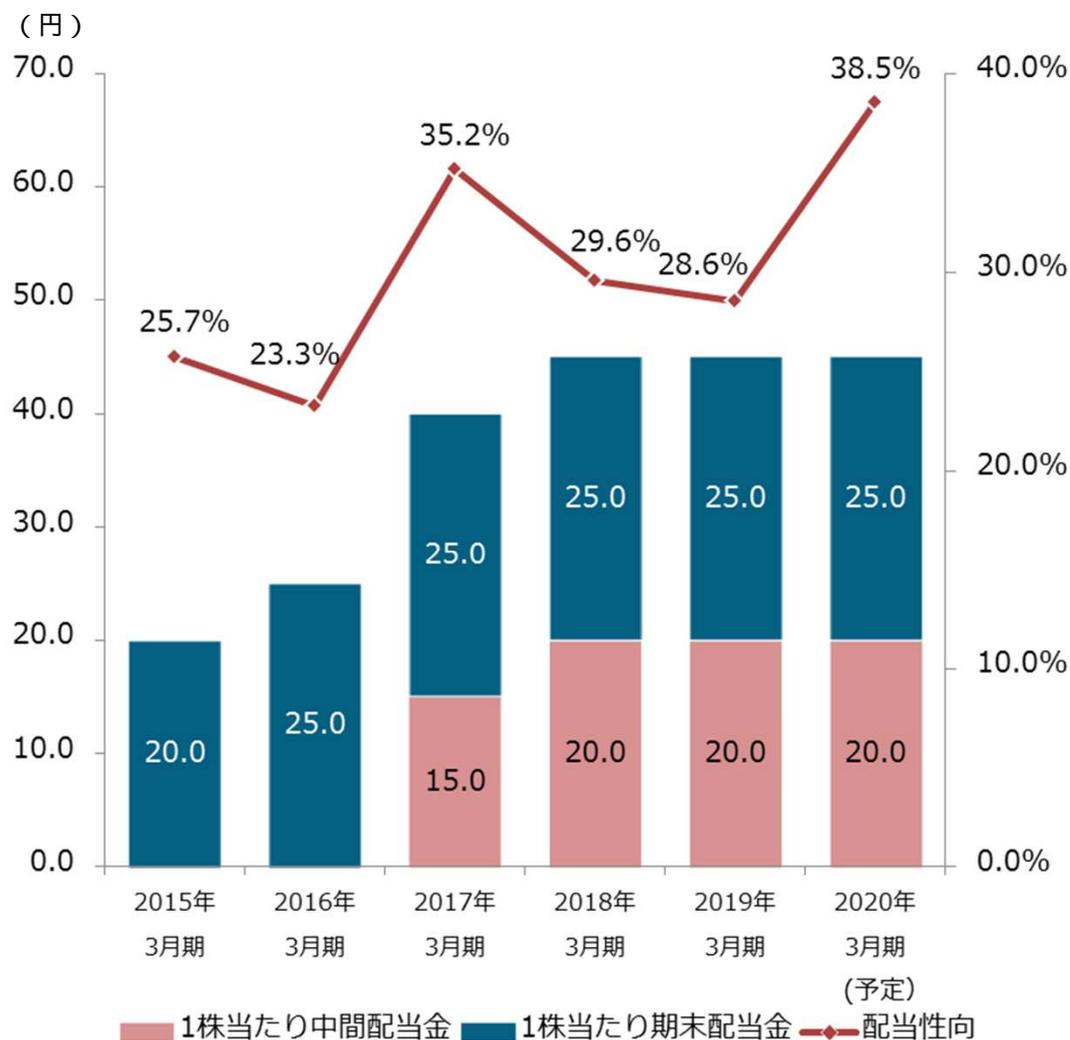
(単位：百万円)	2019年3月期 通期実績	2020年3月期 通期予想	前期比 増減率
売上高	10,476	9,590	-8.5%
営業利益	2,879	2,150	-25.3%
経常利益	2,894	2,160	-25.4%
当期純利益	1,970	1,460	-25.9%
設備投資額	1,268	1,697	+33.8%
減価償却費	629	740	+17.7%
EPS (円)	157.59	116.77	-25.9%
1株当り配当金 (円)	45.00	45.00	

- 米中貿易摩擦が激化、長期化するなか、海外経済の減速に伴う輸出の鈍化や世界的なIT需要の回復の遅れなどから、輸出や設備投資が停滞する可能性が高く、期初の想定以上に厳しい状況となっている。
- 自動車産業では安全装備の充実に加えEVやFCVの増加が期待されるが、中国での不振が国内部品メーカーにも波及しており、工具需要全体としては低下を予想。
- 下期においては、生産量の抑制に伴い生産効率が低下するとみられるほか、新開発センターの竣工やプライベートショーの開催により、販管費が増加するため、利益は売上高以上の低下を予想。
- 設備投資は通常の機械設備に加え、新開発センターや子会社工場建設により過去最高の水準を想定。これらの竣工により減価償却費も上昇。
- 1株当り配当金は年間45円を継続。

上期実績と下期予想

(単位：百万円)	2020年3月期					
	上期実績	売上比	下期予想	売上比	通期予想	売上比
売上高	4,932	-	4,657	-	9,590	-
前年同期比	-6.0%		-10.9%		-8.5%	
営業利益	1,263	25.6%	886	19.0%	2,150	22.4%
前年同期比	-13.6%		-37.4%		-25.3%	
経常利益	1,265	25.7%	894	19.2%	2,160	22.5%
前年同期比	-13.8%		-37.3%		-25.4%	
当期純利益	832	16.9%	627	13.5%	1,460	15.2%
前年同期比	-14.4%		-37.1%		-25.9%	

配当予想（株主還元について）



業績に応じた利益還元

- 2019年3月期の1株当たり年間配当金は45円。
中間配当20円、期末配当25円
配当性向は28.6%
- 2020年3月期の1株当たり年間配当金は45円を予定。
中間配当20円、期末配当25円
業績予想に対する配当性向は38.5%

利益水準の低下を想定するものの、配当の安定性等を考慮して前期の水準を継続。

- 株主優待
毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された、1单元（100株）以上を保有する株主様を対象にオリジナルクオカード1,000円分を贈呈。

なお、保有年数3年以上の株主様には1,000円分を追加で贈呈。

2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

參考資料



過去5年間の業績と主要データ推移

(単位：百万円)	2015年3月期 通期実績	2016年3月期 通期実績	2017年3月期 通期実績	2018年3月期 通期実績	2019年3月期 通期実績
売上高	7,402	8,382	8,825	9,767	10,476
営業利益	1,481	1,914	2,013	2,695	2,879
営業利益率	20.0%	22.8%	22.8%	27.6%	27.5%
経常利益	1,534	1,954	2,026	2,733	2,894
経常利益率	20.7%	23.3%	23.0%	28.0%	27.6%
当期純利益	973	1,342	1,420	1,903	1,970
当期純利益率	13.1%	16.0%	16.1%	19.5%	18.8%
有利子負債額	-	-	-	-	-
純資産額	8,480	9,569	10,666	12,002	13,461
総資産額	10,339	11,371	12,517	14,467	15,381
自己資本比率	82.0%	84.2%	85.2%	83.0%	87.1%
設備投資額	612	1,295	774	663	1,268
減価償却費	474	505	632	625	629
1株当たり配当金(円)	20.00	25.00	40.00	45.00	45.00
従業員数(人)	281	280	322	338	343

2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

投資指標



2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

株価推移とバリュエーション

週足ベース株価推移（2013年1月～2019年10月）



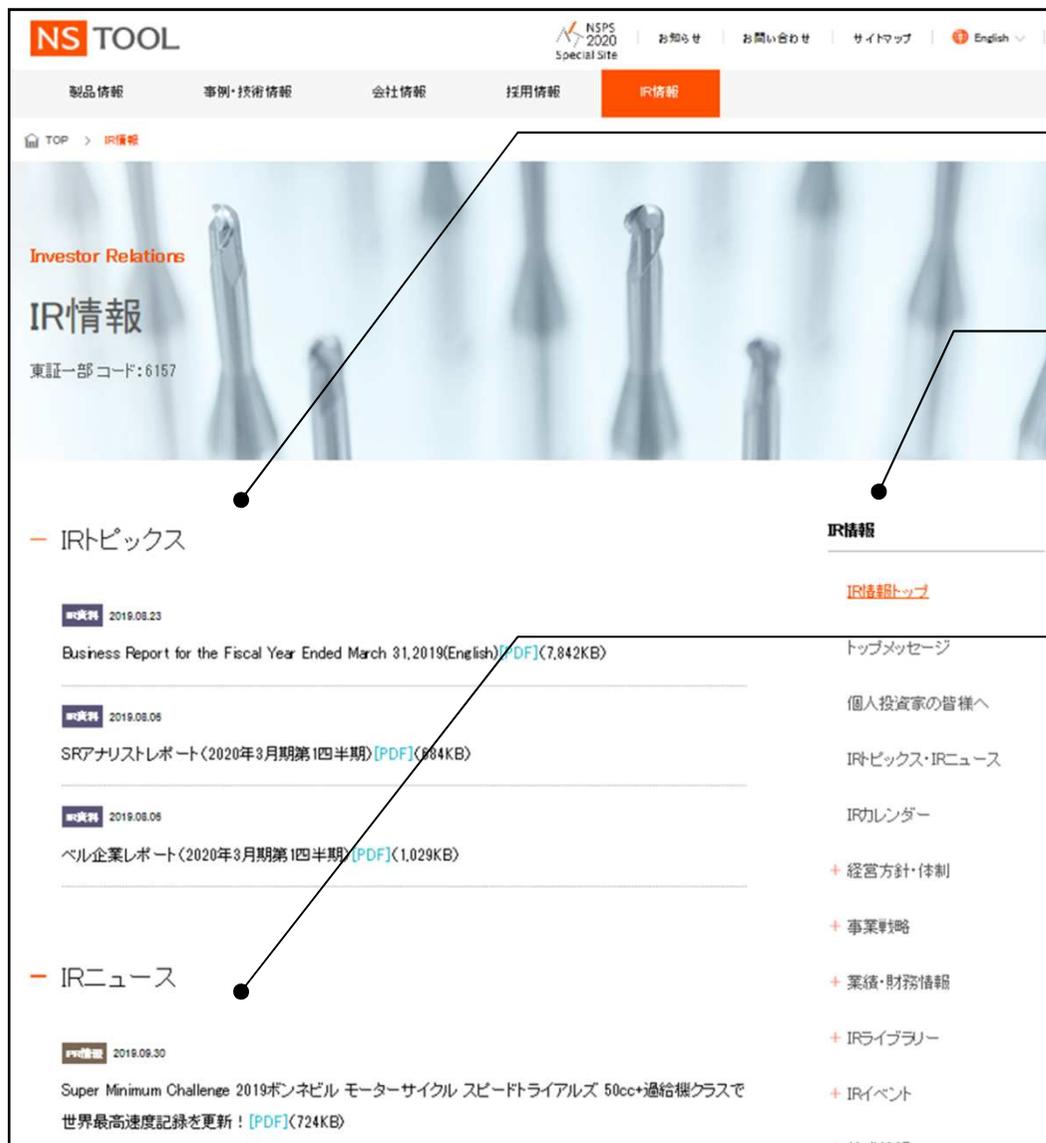
2014年10月1日、2017年1月1日実施の株式分割の影響を考慮しています

バリュエーション（2019年10月29日現在）

売買単位	100株
時価総額	267億円
ROE (19/3期実績)	15.5%

単元株価格	21万4,100円
PER (20/3期予想)	18.34倍
PBR (19/3期実績)	2.00倍

IR情報サイトのご案内



IRトピックス

最新のIR活動に関する話題を掲載しています。

メニュー項目

「+」をクリックいただくと各カテゴリーのメニューが表示されます。

現在閲覧中の項目はオレンジ色でハイライト表示となります。

IRニュース

有価証券報告書や決算短信など適時開示情報に関するニュースはこちらで確認いただけます。

URL <https://www.ns-tool.com/ir/>

当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください。

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員	経営企画室長	田島	寛
管理部	経理課課長	今関	弘毅
管理部	I R 担当	松尾	友紀子

TEL : 03-6423-1135
FAX : 03-6423-1186
E-mail : ir@ns-tool.com

(注) 将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。